

## 夜型ビジネスの拡大に伴い増加する主婦の夜間パート

～深夜（午後10時から午前5時）の所得は2011年には2983.6億円に～

2006年4月9日（日）

B R I C s 経済研究所 代表 門倉 貴史

E-mail: [postbrics@yahoo.co.jp](mailto:postbrics@yahoo.co.jp)

～要 旨～

近年、主婦のパートタイマーを中心として、夜間に働く女性の数が増えてきた。その背景として、以下の3点が考えられる。

まず、第1に人々の生活の夜型化が急速に進行していることがある。人々の生活行動の夜型化が、様々な夜間ビジネスの拡大につながっている。最も典型的なのはコンビニエンスストアだろう。夜間ビジネスの拡大は、当然のことながら、その時間帯に勤務可能な人材の需要増大をもたらす。実際、ファミレスやファストフード、コンビニ、居酒屋、宿泊業などでは、男性はもちろんのこと、夜間勤務が可能な独身女性や子育てを終えた主婦に対するパートタイマーやアルバイトの募集が急増している。

第2に、法制度改定の効果も見逃せない。日本では、女性の午後10時以降の深夜業務は禁止されていたが、99年4月の改正男女雇用機会均等法施行に伴い、労働基準法から女性の深夜業禁止などを記した女子保護規定が撤廃された。

第3に、働く女性の側からみると、夜間勤務の場合には日中の勤務に比べて時給が高くなるというメリットがある。労働基準法は、午後10時から午前5時までの勤務は、深夜勤務とみなして、雇用主は従業員に対して通常の時給の1.25倍以上の賃金を支払わなくてはならないと規定している。夫の稼ぎが振るわないので、給料を補完するために時給の高い夜間パートをする主婦が多いが、自分のお小遣い稼ぎのために夜間パートをする主婦も少なくない。

厚生労働省「賃金構造基本調査」や総務省「社会生活基本調査」をもとに推計を行うと、2001年の女性パートタイマーの稼ぎはマクロで約3兆2635.1億円であった。このうち、深夜（午後10時から午前5時まで）の時間帯に稼ぎ出された報酬は571.9億円となる。これは、2001年の女性パートタイマー全体の報酬の約1.75%に相当する数字だ。また、2006年の女性パートタイマーの稼ぎはマクロで4兆6440.0億円になるとみられる。96年から2001年にかけての女性の時間帯別行動者率の変化が継続すると仮定すれば、2006年には深夜（午後10時から午前5時まで）の時間帯に稼ぎ出される報酬は913.7億円まで増加する。これは2006年の女性パートタイマー全体の報酬の約1.97%に相当する。さらに、5年後の2011年には、女性パートタイマーの稼ぎがマクロで8兆2549.0億円に、深夜の時間帯に稼ぎ出される報酬は2983.6億円まで膨らむ見通しだ。深夜の時間帯に稼ぎ出される報酬は女性パートタイマー全体の報酬の約3.61%まで上昇する。